



# 犀陵だより

平成 24 年度

第 3 号 平成 24 年 6 月 27 日

## 6 月校長講話より

『仕事と夢について』

～前略～

私は小さい頃、郵便配達をする人になりたいというのが夢でした。郵便は待っている人にしてみればわくわくするものであり、手紙やはがきを届けるのは、夢を届けることだと思っていたからです。

中学では医者になりたいと思いました。それは、シュバイツァーという人の伝記を詠んだからです。シュバイツァーは小さい頃けんかした相手に「俺だってお前みたいに裕福なら、おいしいものを食べて強くなって、お前になんか負けない」と言われたのがきっかけで、アフリカに渡り貧しい人のために医療活動を続けました。貧しい人、困っている人のために尽くせることは素晴らしいと思いました。

今は、先生という職業についていますが、小学校、中学校の先生の影響があります。人に教える、人を育てることができる、人に大きな影響を与える先生、これもいいなと思いました。

夢は変わってきます。それで良いと思います。一人ひとり一生懸命考えて、大きな夢、素敵な夢を持ってほしいと思います。

## 学びの場

運動部はこれまでの活動の集大成である、市巾大会、北信大会にこの 6 月は参加しました。本年度は全ての部が北信大会出場ということで、よい成績であったと思います。

運動部、文化部合わせて、本校だけでも 18 の部があります。様々な競技や活動があるわけですが、大会などに応援に行ってみるとそれぞれの競技の特性、習慣等を見ることができて面白かったり、勉強になったりするものです。

例えば剣道です。試合前の練習は当然気合が入っています。会場全体に剣道独特のややトーンの高い声が響き渡っているのですが、本部からの放送が入った瞬間に、その声はぴたっと止み、全員がマイクを手にしていての方の方へ向き直り、正座をして放送を聴くのです。

卓球では、スマッシュなど玉が相手のラケットに当たることなく後ろのほうまで飛んでいってしまうことがよくあるのですが、打たれたほうも打った方もそのボールを追いかけます。自分に拾えるはずがないと分かっているにもかかわらず追いかけていくのです。それが礼儀であり、相手への思いやりであり、プレーに対する真剣な思いを表す姿でもあります。

以前、全校集会などで、進行の「起立」という声に先を争ってすっと立ち上がるある競技の選手たちの姿を見て、顧問の先生にどんな指導をしているのか尋ねたことがありました。答えは「大会の時の雰囲気、絶対他のチームより早くすっと立とうという感じなので、学校でも自然とみんなそういう意識になっているんです。」というものでした。

学校は学びの場です。教科の学習もちろん大事な学びですが、部活動も生徒会活動も掃除も集会も全ての活動が大事な学びの場です。また、学校生活だけでなく、登下校、家庭生活も含め、一日の生活全てが中学生にとっては、自分を向上させるための大切な学びの場になります。分かりきったことではありますが、昼の長さが一番長く、様々な活動が盛んなこの時期に、そのことをもう一度頭に入れ、子どもたちの活動を支援していきたいものです。

